

日野宿発見隊 通信

発行/日野宿発見隊(日野図書館内) TEL 042-584-0467

第十六号

スタンプラリー開催

平成30年5月12日(土)、午前10時から午後4時まで、「スタンプラリー in 日野宿2018」(第83弾)が開催されました。前年とは違ってかわって、天候にも恵まれ、533組(日野駅東口広場・366組 日野宿本陣・83組 甲州街道駅下・84組)の方に参加していただきました。遠方から毎年のように足を運んでくださる方をはじめ、家族連れの参加も多数あり、新選組まつり(土曜日)のイベントとして、認知度もますます高まってきているようです。



新しく加わった大型判子

ーの登録ボランティアをはじめ、個人ボランティア、自治会、さらに日野市職員の皆さんなど、実に多くの方々に支えていただいています。

そんななか今回からは、日野第一中学校の生徒たち16名が午前中応援に駆けつけてくれ、新たな態勢が組めるようになりました。ポイントによっては中学生と高齢者のボランティアがいっしょに参加者の皆さんを迎えるといった微笑しい姿が見られました。

ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。



日野駅東口広場



長蛇の列ができた抽選会場(ゴール)

同年7月28日(土)に予定していた「夏休み!親子で調べよう日野用水(第84弾)」は、大型台風の接近が予想され、やむなく開催中止となりました。申込受付時から多数のご希望が寄せられていただけに大変残念でした。

大昌寺のお坊さんに聞く

日野のおかしの話(第85弾)

同年8月25日(土)午後3時から4時半まで、宿内の古刹大昌寺にて、「大昌寺のお坊さんに聞く日野のおかしの話」を開催しました。猛暑にもかかわらず、30名(子ども9名 大人21名)の参加者がありました。主催者としては子どもたちの参加を想定して準備を進めてきましたが、やはり歴史ある大昌寺だからでしょうか、浴衣姿の若い女性をはじめ年配の方まで一般の皆さんの参加も多数ありました。

早速、杉浦ご住職から、大昌寺の歴史に始まり、ご住職の幼少期の日野宿の昔の話、また仏様の話など、興味深いお話をいただきました。

お話のあと、2回に分けて実際に木魚をたたかせていただきました。

土方歳三没後150年記念
「スタンプラリー in 日野宿
2019」は
5月11日(土) 開催予定!



とりわけ幼
い子たちの木
魚をたたく姿
がとてもかわ
いらしかった
です。

このあと境
内に出て、子ど
もたち8名と大人5名が「時の
鐘」をつかせていただきました。
日常のしがらみから解放される
ような心に響く鐘の音でした。



今回の
ような形
で、宿内の
寺院のご
住職から
お話をう
かがうの
は初めて
のことで
した。私た
ちの申し
出を快くお受けいただいた杉浦
ご住職をはじめ、冷たくておいし
い麦茶をご用意していただいた
奥様にも心より感謝申し上げます。

八坂の祭り写真展(第86弾)

同年9月1日(土)よりひと月、
明治から平成に至る八坂神社の
祭りの写真を、



同神社の玉垣
に25点、竹間
家フエンス5
点、森町消防
器具置場の壁
面に15点。計
45点を展示し
祭り好きの皆さんに楽しんでも
りました。

一中一年生の

校外学習に協力(番外編)

同年11月2日(金)、午後1
時半から午後4時まで、一中から
の依頼を受け、一年生の総合的な
学習の時間「郷土学習 日野調べ
―日野の魅力―」に、日野宿発見
隊が協力しました。

この日は、生徒たちが決めたテ
ーマについて、校外講師の指導を
受けながら調べるといふ授業内
容でした。日野宿発見隊ではその
なかの「日野の地蔵・石仏につい
て」と「日野用水について」の2
つのグループを担当しました。

一中生徒と用水清掃(番外編)

同年10月12日(金)午4時から、
一中の生徒会の呼びかけで、同校の
ボランティア部を始め、合唱部のメン
バーなど約60名の生徒と、発見隊
メンバー5名で、同校近くの日野用
水清掃に取り組みました。

生徒会とのコラボによる用水清
掃も今年で3回目。校内を用水が流
れるという素晴らしい環境を、皆で
大切にしていこうとする意識がし
っかり根付いてきたようです。

まち歩き会「まちかど写真館めぐり」

(第87弾)

同年12月15日(土)の午前、日野
宿内に「まちかど写真館」として現
在展示中の約30点の写真パネルを
見てまわりました。

総勢19名で、半世紀前の日野宿
を捉えた風景や集合写真などの貴
重な写真を楽しみながら、日野宿の
まちの変遷を学びました。

そのあと、JA東京みなみのご厚
意で、40分ほど旧日野市農業協同
組合の大谷石の米蔵を特別に見学
させていただきました。
案内していただいた河野さんは、

現在、万願寺にあるJA東京みな
みの農産物直売所「みなみの恵み」の
責任者としてお勤めです。氏の話で
は、就職して間もない30年ほど前
は、品質検査を終えた60キロ近い米
俵(麻袋)を肩に担いで、この米蔵
に運び入れ、天井近くまで20段近く
積み上げたそうです。最大だと20
00俵も収蔵できたそうです。

この米
蔵は昭和
42年(1
967)
10月に店
舗を新築
した際に
川崎街道
側を壊し
て、建設



大谷石造りの米蔵内部

当初の3分の1の大きさになったそ
うです。「多摩の米蔵」と称された
日野宿を、長年支えてくれたこの立
派な米蔵の存在を知り、またひとつ
新たな日野宿のお宝を発見した思
いです。

なお当日は、郷土資料館の学芸員
秦さんにも、説明をしていただきま
した。河野さん、秦さんありがとう
ございました。